

平板、タイル補修の手順書

準備工

試掘(不要の場合有り)

下地処理(草刈り・不陸整形)

平板、タイル設置工

後片付け

内 容	留 意 事 項
作業内容の確認 作業人員の確認 保護具の点検 使用機械、資材、工具の点検	指示書の内容確認 安全ミーティング日報による 作業別安全チェックシートの活用。
施工箇所に埋設ケーブルが有るか、無いか、図面にて確認し有る場合は、 施工前に試掘を行う。この時、関係部署の立ち会いを受けること。	埋設管を傷つけない様に、人力にて掘削を行い、 関係部署の立ち会いを受ける。
施工箇所の下地処理として草刈りを行う際は、別紙草刈り手順書に 準拠し作業を行う従い。本線及び側道等で飛石の懸念がある箇所については トリマー式の刃を使うか、飛散防止ネットを設置し、作業を行う。 浮石等施工に支障のあるものは取り除く。	有資格者による機械作業を行う。 飛散防止対策の実施(ネット又はトリマー等の使用等) スコップ等を扱う際は無理にこじたり力任せに 振り回さないこと。(飛石注意)
平板タイルの段差を確認する。 パール、ノミ等で修正範囲の平板、タイルを撤去する。 不陸調整を行う。もしくは清掃を行う。 ①平板の場合 設置位置の端部より平板を隙間無く据付ていく。 ②タイルの場合 一定の目地をあけタイルを据えて、通りを確認し、 目地を充填する。 ③MKクリート等で撤去箇所を充填する。	木材及び水系等で段差の凸凹を確認し、修正する範囲を 確認する。 平板、タイルを破損させないように気をつける。 不陸調整後、十分に「転圧」を行い、沈下を抑制する。 ①ハンマーで打つ際は手をたたくことが無いよう手元注意する。 ②安全データシートを確認し保護具を着用し作業する。 ③安全データシートを確認し保護具を着用し作業する。
施工後の硬化にあわせてコーンバー等で立ち入り禁止措置を行う。 使用した道具、機材、余った材料等は、トラックに積み込み、最後に 竹ぼうきなどで清掃する。	翌日まで置く場合には風対策を十分行う。 使用した道具等は、現場に忘れ物が無いように 確認する。

注意事項 機械作業は、有資格者が必ず行う。
 車輛の誘導を確実にを行う。
 作業に合った保護具を使用する。
 立ち入り防止柵内に立ち入る際は既設門扉の使用または開口部を設けるか適切な昇降設備を使用する。
 移動前に積載物の落下防止対策を実施し、複数人で確認する。
 車両を後退させる際は誘導員と打合せ実施後移動する。